

平成 29 年度大阪府依存症関連機関連携会議第 2 回大阪府依存症地域生活支援部会
【議事概要】

依存症関連機関・団体紹介冊子作成について

(1) 冊子作成の目的について

(事務局) 本人や家族が相談窓口がわからず、10 年経ってやっと窓口にとどり着いた、ということを知る。市町村等の地域の相談窓口に行っても、担当者が支援機関等のことを知っていなければ、支援にとどり着かないという問題がある。今、つながっていない人は、私たちの知らないところで悩んでいる。依存症のことにあまり詳しくない地域の相談窓口の担当者や、どこに相談したらいいかわからない本人や家族に情報を届ける冊子にしたい。この冊子によって、本人や家族が支援機関等につながり、地域生活を送っていただけるようになればと考える。

(2) 機関掲載の仕方について

- ・回復施設と支援機関の違いについて教えてほしい。
- ・こういう場合はこういうところにいけますよ、という典型例を掲載すると、つながりやすいのではないかと思った。
- ・依存症の人は病気と思ってないこともあり、保健所の相談について「こころの健康に関すること」とだけ記載しても、相談できるということが伝わらないかもしれない。依存症も相談できるというような文言があった方がいいのではないか。
- ・「依存症の背景には…」の箇所について、背景と書くと、こういう人が依存症になると記載することになるのではと思ってしまった。
- ・「依存症の背景には…」は、依存症に関連する問題か、依存症関連問題とするのがよいと思う。

(3) 冊子の体裁について

- ・字の大きさはこれほど大きくなくても、1 ポイント小さくして行間を詰めてもよいと思う。あまり分厚くても使いにくいので、ページ数は減らしてほしい。自助グループなどの体験談やメッセージについては、1 ページの下半分でも十分だと思う。
- ・1 冊の冊子にすべての依存症をまとめて掲載し、本編と資料編を分ける。

(4) 配布先・活用・内容について

- ・配布先に府立高校の養護教諭とあるが、中学校も入れてほしい。薬物は 14 歳が最多開始年齢とされており、使用開始の平均年齢は 16 歳。それを考えると、中学生で使い始めている。ギャンブルも 13 歳くらいから始めている、平均使用開始年齢は 20 歳になっている。
- ・中学生自身がこの冊子を活用するというより、中学生の子どもをもつ親や担任が養護教諭に相談することが考えられるので、その時に活用してもらおう。また、ネット、ゲーム依存が大きな問題にもなっている。ネット依存は 520 万人いて、100 万人が未成年と言われている。そういう相談が養護教諭のところに入っていると思われるので、支援する側が持っているのは大事。アルコールや薬物は中学から教育が始まっている。
- ・先生が生徒から相談を受けた時に、親の依存症の問題に対し、適切な対応ができると思う。小学校でも先生が理解してくれていると、子どもへの対応が変わるのではないか。理解してくれている人が一人でも増えることが、家族、本人と支援機関との出会いになり、早期発見につながる。そして、早い回復のスタートとなる。
- ・家族や本人からは「相談できなかった」「相談するのは勇気がいる」と聞く。紹介だけでは本人や家族が相談できずに途切れてしまうので、最初に聞いた人が依存症だと思えば保健所等に連絡することを明記した方がよい。
- ・アルコール、薬物、ギャンブル等の各説明については、わかりやすい説明にしてほしい。
- ・アルコール依存症の問題がある家庭で育つ子どもはクラスに 1 人はいる計算になる。ギャンブル等依存症は 520 万人いると言われているので、クラスに 2 人の割合でいることになる。その子どもたちの背景に親の依存症の問題が隠れていることになるので、依存症の親がいる家庭で育つ子どもの問題に対応するためにも、ぜひ中学校や小学校にも配

布してほしい。

(5) 医療機関の掲載について

- ・ 専門医療機関がたくさんあるので、了解を得て、できるだけ利用する人の便利のように掲載してほしい。
- ・ 医療機関のところで、「拠点」と「専門」と書かれているが、あまり詳しくない人に「拠点」と言っても意味がないように思う。単に治療できるということであれば、こういう区分けでなく、「治療できる」または「相談できる」医療機関などでよいのではないか。
- ・ プログラムや専門病棟のある医療機関を掲載してはどうか。
- ・ どの医療機関を掲載するのが難しいのであれば、「最寄りの保健所に問い合わせてください」としてもらえば、それを入り口にして相談につながることもあると思う。
- ・ 保健医療計画で依存症の治療を行っている医療機関について、アンケートを実施したので、検討して可能であればそれを掲載するのはどうか。

ポスターについて

- ・ 学校に貼るのであれば、スマホを入れたほうがよい。
- ・ もっと目に付くようなデザインがよい。
- ・ アルコールは、ビールジョッキではなく、日本酒で苦労している人の絵がよい。
- ・ ネットもやめたいけど、やめられないような絵を入れてほしい。
- ・ もっと早い時期にと考えると、「飲み過ぎややりすぎで周囲が困る」ということがアピールできればよい。
- ・ スマホからネットギャンブルに入る人が多い。簡単に24時間、ギャンブルがスマホでできてしまう。この絵は古い。
- ・ ゲームセンターに子どもがたくさん行っている。ゲームセンター依存もある。
- ・ これは、依存症だということにすでに気が付いている人へのポスターだと思う。本人が気づくには、「苦しんでいませんか」「悩んでいませんか」など、相談するということに気づいてもらうことがある。「誰にも相談できず悩んでいませんか」とか「私たちはあなたのことを心配しています」がフィットするのは。
- ・ カードサイズで、生徒手帳に入るものがあるとよい。詳しい情報はネットで、裏にはメッセージ、というのがよい。今、メッセージを伝える方法は紙からネットになっている。たくさんのかたちを載せると見ない。興味のある人がそこに入っていくというものがあるとよい。
- ・ 「相談してくださるのを待ってますよ」という温かいメッセージが伝わるものにしてほしい。
- ・ 言葉が大事。実際に窮地に陥っている人が絵をみてもピンとこない。窮地に陥っている家族は、まず文字から入る。若い人は絵から入るので、注目できる絵があればいいと思うが。
- ・ 窮地に陥ったら、情報のない中で、誰に相談していいのかすらわからない。スマホやネットでつながる人が多いので、そこは大切にしてほしい。デジタル世代に向けての啓発は大きな課題。
- ・ これは本人向けのメッセージだと思った。かなり進行している状態だと思う。少しでも早い段階で、「おかしいかな」という段階で気づくものでもよいかと思った。重度化しないうちというメッセージを加えてほしい。
- ・ これは本人向けのメッセージになっている。一番最初に困って相談するのは、90%は家族。本人が出てくるのは、10%あるか、ないか。
- ・ ネットでもスマホでも、オンラインゲームが問題になっている。
- ・ 盗撮の記事が頻繁に新聞に掲載されている。窃視症にくくられるが、そちらも入れてほしい。
- ・ 処方薬、市販薬、違法薬物は分けた方がいい。
- ・ このポスターを見て相談があった時に、受けた側が対応できる力を養う研修をしてほしい。